

平成30年9月10日号 (第188回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

今回の阿伎留通信は、「人生の最終段階や急変時における医療・ケアに関する意思確認と同意について」をテーマに看護部 井上 理恵 部長よりお話しさせていただきます。

『人生の最終段階の医療』とは

入院中は治療すべき疾患以外にも、「生命を脅かす疾患」に直面することがあります。命の危険が迫った状態になると、約70%の方が医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。

当センターでは、本人が最後まで自分らしく、自らの尊厳を保って前向きに生きるという在り方を大切にしたい医療を目指しています。

そのために、当センターでは、入院患者さんに「人生の最終段階や急変時における医療・ケア」について、本人やご家族へ、意思の確認を行ったうえで同意書を頂いております。

意思の確認については、以下の考えのもとに、本人・家族に意向をお聞きします。

- ① 本人の意思の確認ができる場合には、本人による意思決定を基本とします。
- ② 本人の意思の確認が不明確な場合には、本人の意思推定を尊重し、家族等と十分に話し合い、本人にとって最善の医療・ケアを提供します。
- ③ 本人の意思の確認や意思推定が困難な場合には、本人にとって最善の方針を取ることを基本に、家族等と十分に話し合いを行います。家族等が判断を医療・ケアチームに委ねた場合にも、十分な話し合いを持ちながら本人にとって最善の方針を取ることを基本とします。

いずれの場合においても、本人にとって最善の医療・ケアが提供されることを最優先に考え、医師などの医療従事者から適切な情報の提供と説明を行い、本人が自らの意思をその都度示し、伝えられるような支援を行い、本人やご家族との話し合いを繰り返し行う機会を持たせていただきます。

自分らしく人生を最期まで生きるために、これまでの人生を振り返り、これから何を大切にしたいのか、人生の最期をどのように迎えたいのかなど、元気な時から事前に考え、家族や信頼する方と話し合ってみませんか？

「人生の最終段階や急変時における医療・ケアの確認書」の内容は以下の通りです。

- ◆この内容は**現時点での意思の確認**であり、病状が変わればその都度、話し合う機会を持たせていただきますので、遠慮なくご相談ください。
 - ◆当センターでは通常の診療で、呼吸苦や血液中の酸素濃度が低い時には酸素マスクなどによる**酸素吸入**を行っています。また、経口摂取量が少ない時には**末梢点滴**を行っています。
1. 事前指示書はお持ちですか。当てはまる項目に✓を付けてください。
 - なし
 - あり
 - 本人の意思が記載されているものがある
 - 意思決定代理人により記載されているものがある
 2. 医療処置について、希望する□に✓を付けてください。
 - ・心臓マッサージ
 - 希望する 希望しない 医療チームの判断に委ねる
 - ・気管挿管や気管切開を行って人工呼吸器を装着して行う人工呼吸
 - 希望する 希望しない 医療チームの判断に委ねる
 - ・薬物投与による心機能・血圧の維持
 - 希望する 希望しない 医療チームの判断に委ねる
 - ・輸血療法（際限なく続けることはできません）
 - 希望する 希望しない 医療チームの判断に委ねる
 - ・人工透析（適応がなければ施行できません）
 - 希望する 希望しない 医療チームの判断に委ねる
 3. 食べられなくなった時、末梢の点滴は継続していきますが、その他に人工栄養による延命治療を希望しますか。希望する□に✓を付けてください。
 - ・経鼻カテーテルによる経管栄養
 - 希望する 希望しない 医療チームの判断に委ねる
 - ・胃瘻や食道瘻による経管栄養
 - 希望する 希望しない 医療チームの判断に委ねる
 - ・高カロリー輸液（中心静脈栄養）
 - 希望する 希望しない 医療チームの判断に委ねる

阿伎留通信については、バックナンバーを公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)